

作業療法士が実感している 訪問リハビリテーションの介入効果

(医)らぽーる新潟 ゆきよしクリニック
作業療法士 大越 満

はじめに

2004年11月の高知大会にて、
作業療法士（以下、OT）による
訪問リハビリテーション（以下、訪問リハ）の
実情として、

- 1) 介入内容
 - 2) 知識・技術不足の内容
 - 3) 職域を越えている内容
- 以上を報告した。

研究目的

OTが実感している訪問リハ
の介入効果を明らかにし、
今後の方向性を探る

研究方法

調査対象

- 1.訪問看護ステーションに勤務している OT148名
(日本作業療法士協会に登録している全員)
 - 2.訪問看護ステーションに所属し, 日本作業療法学会
(2001~2003)にて演題発表をしている OT5名
- 合計153名

調査方法

郵送による質問紙調査

(2003年8月25日, 回収期間は約2ヶ月)

- 1.OTの属性
- 2.訪問リハの実践内容
- 3.実感している訪問リハの介入効果

調査用紙

Ⅱ. 訪問リハの実践について

次の各問の選択肢のうち、当てはまる番号に○をつけてください。
選択肢のない設問では、自由に記載してください。

あなたが訪問リハの実践において、これまでにとてもうまくいったと感じておられる
お一人のクライアントを選んで頂き、その方についてお聞きします。
(該当項目が複数ある場合は、複数に○をつけてください)

問7. そのクライアントの性別は

1. 男 2. 女

問8. そのクライアントの年齢は

1. 40代 2. 50代 3. 60代 4. 70代
5. 80代 6. その他()

問9. そのクライアントの疾患名は

1. 脳血管障害 2. 頭部外傷 3. 脊髄損傷 4. パーキンソン病 5. 脊髄小脳変性症
6. リウマチ 7. 骨折・切断 8. 痴呆 9. 呼吸器・循環器疾患
10. その他()

結果

結果1

アンケート回収率 37.9%(153名中58名)

回答者の属性

性別 女性 40名(69%) 男性 18名(31%)

年齢 20代 24名(41.4%) 30代 27名(46.6%)

作業療法経験年数 2～4年 14名(24%)

5～7年 15名(27%)

8～10年 10名(17%)

11～20年 14名(24%)

訪問リハ経験年数 2～4年 38名(65%)

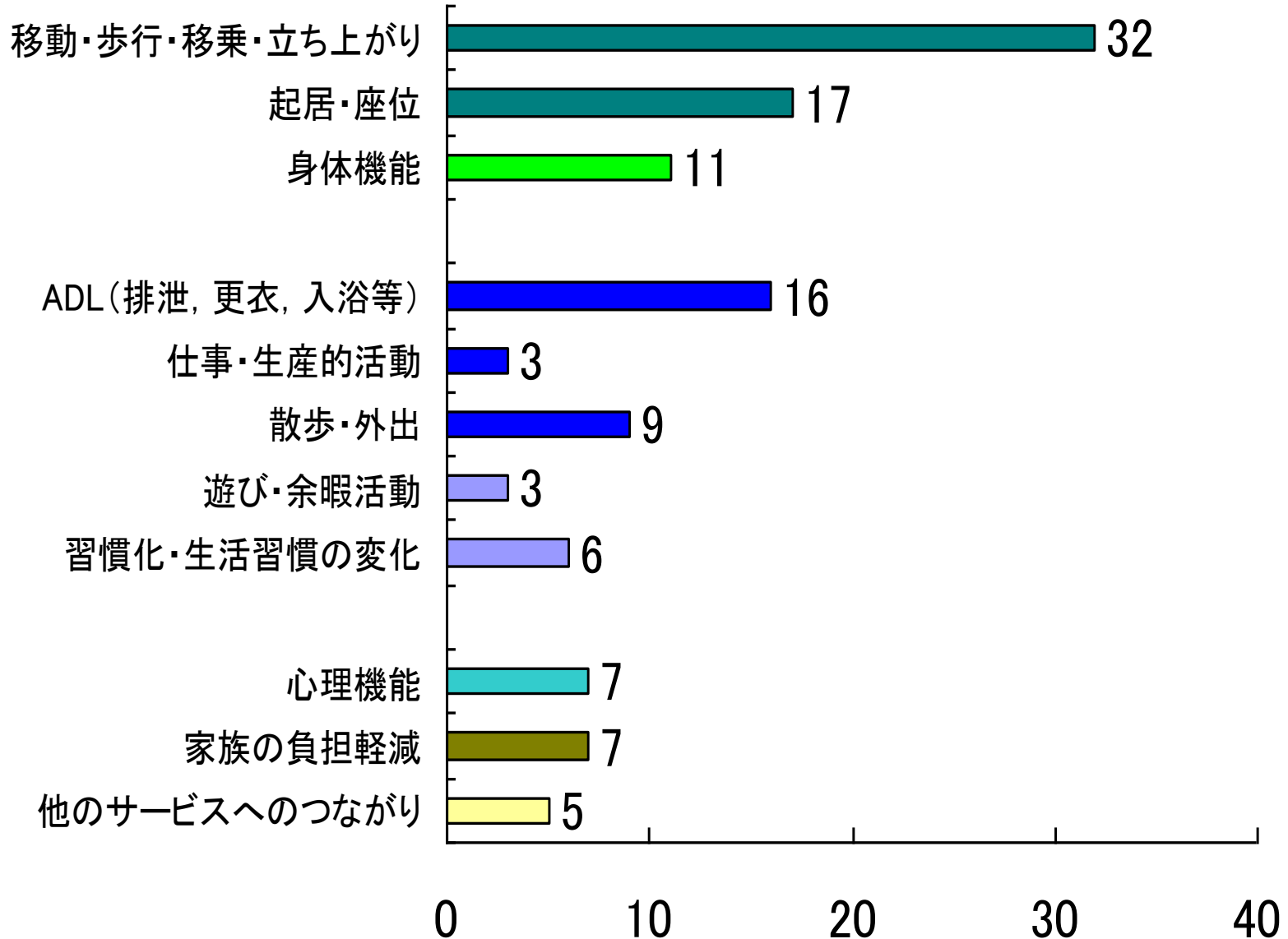
担当クライアント数 19名以上担当30名(51.7%)

結果2 回答者が効果を実感していた クライアントの紹介

- 回答者：43名
- 性別：男性28名(65.1%)，
女性15名(34.9%)
- 年齢：70歳代以降(60.5%)
- 疾患名：脳血管障害28名(52.8%)
- 発症(受傷)からの期間：3～6ヶ月,11名(25.6%)
- 家族状況：2人暮らしが20名(46.5%)

結果3 回答者43名が実感していた クライアントへの介入効果

複数回答:合計116



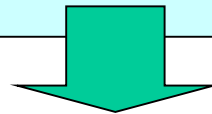
考察

考察1-1

訪問リハを利用するクライアントの要介護度は高い傾向にある

表 介護保険受給者と介護度との関係 (厚生労働省, 2002 単位: 千人)

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
居宅サービス受給者合計	240.3	560.3	335.4	197.7	151.1	135.7
(割合)	(14.8%)	(34.6%)	(20.7%)	(12.2%)	(9.3%)	(8.4%)
訪問リハ受給者	0.2	2.3	3.2	3.0	3.5	5.1
(割合)	(1.1%)	(13.2%)	(18.4%)	(17.2%)	(20.1%)	(29.3%)



寝たきり状態から脱却させることが第一の介入目標になりやすい

考察1-2 “作業”とは

(Law M,1998)

セルフケア
(生きる)

レジャー
(楽しむ)

生産活動
(はたらく)

移動
歩行
移乗
立ち上がり
起居
座位
ADL

OTは、“作業”の文脈を大切にし、クライアントのセルフケアのみならず、“はたらく”“楽しむ”作業にも効果をもたらす働きかけをしていくことで、OTらしい訪問リハ実践になるものと考えられる。

考察1-3 訪問リハにおけるOTの今後の方向性

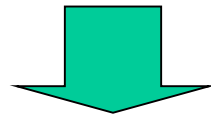
Aさん: 男性. CVA. 通院や買い物をしたい希望がある

歩くことが出来ない→OTが歩行に介入

主目標: 家族の手を借りず, 自由に外出が出来る人生を歩む

副目標: 玄関まで歩く～歩いて屋外に出る～車を運転する

現在: 往復80kmある病院まで車で通院が出来るようになった



クライアントの作業を可能にし, 目標が達成されるよう, 訪問リハを実践し, 多くのクライアントに介入効果をもたらしていくことが重要

今後の課題

- ・ 訪問看護ステーションに勤務するOTを対象
- ・ 介入効果を実感していたのはOT
- ・ クライエントが実感する訪問リハの効果
→ 今後、調査、研究していく必要



私が訪問している, 硬貨を集めるのが趣味の97歳女性

ご清聴ありがとうございました